

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

年初からドル安・円高が続いてきたドル/円相場は、6月のEU離脱を決めた英国国民投票以降、何度か100円割れを見たものの、底抜けを回避してきました。

これは、年初からのドル下落幅が20円を超える大幅なものとなっているなか、根強い米国の利上げ観測と日銀による追加緩和期待が背景にあるものと思われます。

10月後半に入りこれまでドルの頭を抑えてきた上値抵抗を突破し、7月以来となる105円台を回復しました。

【ドル/円 週足】



これにより99円台をボトムとする逆ヘッドアンドショルダーを形成しているようにも見え、中期的な底を打った可能性が高くなっています。

年末に向けて107円～108円を目指す動きが期待されます。

しかし、来年を考えるとドルが再び下落するリスクは高いように思われます。

米国の継続的な利上げは困難となりつつあり、日銀の追加緩和策も手詰まり感が露呈してきています。

相場の大きな流れを見ても、一旦始まった円高や円安の波が1年未満で収束する例はほとんどなく、来年も今年の流れを引き継ぐ可能性が高いと考えられます。

年末には52週移動平均線が108円以下に下がってくるものと考えられ、この水準でのドルの頭が抑えられるのかを見極める必要があるでしょう。

ドル/円相場のトレード戦略

■ 短期展望

先週は、民主党大統領候補クリントン氏による私用メールサーバー利用問題に関連して、FBIが捜査を再開したとの報道を受けて、選挙の行方が不透明となったことによるリスク・オフの流れで、ドルは102円半ばまで下押し展開となりました。

しかし、週明けの早朝に「FBIはクリントン候補の私的私用メールの問題について、訴追をしないとした8月の判断を維持と議会に伝えた」とのニュースが伝わると、一挙にポジション調整を誘発し104円台まで上昇しています。

今週は、この米大統領選が最大の焦点となると見られていますが、クリントン氏勝利となれば、市場の目は12月の米利上げに向けられドルは106円程度まで徐々に上昇していくことが期待されます。

しかし、トランプ勝利の可能性はまだ残されており、その場合はドルは再び102円水準へ押し戻されるものと考えられます。

したがって、今週のメインシナリオは103円～106円のレンジで週後半に向けドル優勢推移、リスクシナリオとしてトランプ大統領誕生による102円レベルへの急落を予想します。